

とび 北の ら

vol.122
令和2年11月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

アートな縄文

北の縄文文化に見る、
1万年の創造性

この人に注目

福田 亨

アートのチカラを考える

斉藤幹男・こどもアート

体験事業レポート

街歩きアート

根釧台地に拓かれた酪農のまち

暮らしの風景が創造の場に

[別海町]

エッセイ

石川 直樹

表紙作家の紹介

小泉 由美





千歳市美々4遺跡(約3000年前)の、祭祀に関わるとされる動物形土製品。見る方向によって海獣とも水鳥とも言われる
(北海道埋蔵文化財センター 所蔵)



八雲町野田生1遺跡(約3500年前)の、漆塗りの赤彩注口土器。東北から持ち込まれたと考えられ、現代の工芸品にも通じる精巧なデザイン
(北海道埋蔵文化財センター 所蔵)

恵庭市カリンバ遺跡(約3000年前)の墓の副葬品として見つかった漆塗りの飾り櫛。このほか漆塗りの腕輪や腰飾り帯など、赤やオレンジ、ピンクの縄文の色が鮮やかに残されている
(恵庭市郷土資料館 所蔵)



●特集 アートな縄文

北の縄文文化に見る、1万年の創造性

縄文文化が持つ表現の面白さ・斬新さは、美術家の岡本太郎に代表されるように、現代のクリエイターにインスピレーションを与えてきました。縄文の創造性はどのような背景から生まれたのか、札幌国際大学縄文世界遺産研究室室長の越田賢一郎さんに考古学の視点から解説いただき、さまざまな分野で縄文を表現しているクリエイターにもお話を伺いました。

「海・森・雪」が育んだ北の縄文文化

縄文の土器や土偶に、美術家の岡本太郎がアートとしての美を見出して以来、その独創性は現代のクリエイターにも大きな影響を与えています。近年は、2018年に東京国立博物館で特別展「縄文—1万年の美の鼓動」が開催され、2021年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の、ユネスコ世界文化遺産登録を目指すなど、縄文文化への関心が高まっています。

縄文とはどのような文化なのでしょう。札幌国際大学縄文世界遺産研究室室長・越田賢一郎さんは、「縄文文化が花開くには、海・森・雪という3つの要素が重要」と言います。「縄文時代は約1万5千年前に始まったとされていますが、それ以前は氷河期で、寒く乾燥した日本列島には針葉樹林が広がっていました。その後、急激に温暖化へ向かい、約1万年前には日本海に南から暖流が流れ込みます。これが湿気をもたらし、東日本では雪が降

るようになります。すると、木の实がなる落葉広葉樹の森が育ち、小動物もやってきました。食料資源が豊かになった列島、とくに東日本には多くの人々が定住し始めました」。

なかでも北海道と北東北は、「海・森・雪」の条件が揃っていたのだとか。雪が育んだ、木の实や山菜が豊富な森。森から海へ栄養分を運び冬の蓄えとなるサケが遡上する川と、寒流と暖流が交わる多様な水産資源の宝庫の海。北海道と北東北は、このような恵まれた環境を背景に、縄文の特徴が一番よく表れた地域といえるのです。

集団を結びつけるイメージのデザイン

食糧を煮炊きする土器が作られるようになると、定住が可能になり、次第に大きなムラが作られるようになります。越田さんによると、縄文を象徴する縄目文様は、北では比較的早くからつけられていたようです。「たとえば、約7千年前の土器には燃った紐

縄文文化が持つ独創性や精神性に魅せられ、アートやデザインが目線で縄文を眺めるクリエイターたち。考古学を飛び出し、自由な発想で表現された作品からは、縄文の魅力が再発見できます。

石崎幹男 写真家

北海道大学総合博物館所蔵の古生物の標本を10年かけて撮影。2019年には同博物館で開催された考古学展示の写真全般を担当しました。「土器などの存在には質量が感じられ、実際に縄目文様に触れると作り手のエネルギーを感じます」という石崎さんは、被写体の“手触り感”を大切にしています。ときには、学術的価値観に依らず、モノそのものが持つエネルギーを表現することも。「今は現地に赴き、その時代の空気を、まわりの風景を、人のありようと聞こえない会話を想像してみたい」と考えています。



北海道大学構内で発掘された縄文中期～(約5000年前～)の土器片 (所蔵:北海道大学 撮影:石崎幹男)

茂呂剛伸 ジャンベ・縄文太鼓演奏家

茂呂さんは西アフリカの太鼓ジャンベ奏者、そして江別の土器から創案した太鼓を制作し演奏する、世界で唯一の縄文太鼓奏者です。「縄文太鼓は、縄文の土の響きを感じてもらうためのアートワーク。それは風土の音であり、私たちのアイデンティティにつながっています」と語ります。「現代社会で忘れてしまった縄文の豊かな精神性に今こそ立ち返り、未来へ向かうべき」という茂呂さんの考えに共鳴した札幌の絵本作家や音楽家、ダンサーらと、新たに舞台を創作。縄文の音とともに心豊かな世界を表現します。

リモート公演「FUDA」
公開日:2020年11月20日～12月6日(有料配信)
※詳細はHPで要確認 <http://www.goshinmoro.com>



茂呂さんが制作した、縄文時代の土を混ぜ込んだ土器にエゾシカの革を張った縄文太鼓(左)とジャンベ



本当に価値あるものとはなにかを探る物語を、縄文太鼓とピアノ、ダンスで表現した舞台「FUDA(札)」

ドニワ部 土偶と埴輪好きの大人の部活

土偶と埴輪で「ドニワ部」。立ち上げたのは、カフェ「ハラペコリンコ」店主・種田梓さんです。ハンドメイド作家や自身が制作したグッズを、店や主催イベント「ドニフェス」で販売するほか、研究者を招き勉強会も開催しています。種田さんが土偶をデザインするときは、デフォルメしすぎないよう心掛けています。「元々完成されていると思うし、文様が左右非対称なところも大切にしています」とのこと。活動が実り、最近は縄文をデザインのひとつとして捉え、日常に縄文を取り入れ楽しむ人も増えつつあります。

ドニワ部 <https://www.facebook.com/doniwab/>
<https://twitter.com/doniwab>
ハラペコリンコ
●札幌市中央区南18条西16丁目1-20
☎011-213-8626
<https://www.facebook.com/harapecorinco/>



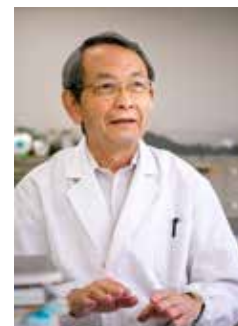
種田さんによるデザインのほか、縄文の知識豊富な作家のものや、学芸員に協力してもらい制作したグッズも揃う

を転がしたり押しつけたりする文様がありますが、全国的に縄目文様が見られるようになるのはもう少しあと。とくに北海道では縄目文様が5世紀まで残り、続縄文文化と呼ばれています。つまり、北では古くから縄目文様をデザインに取り入れ、最も長く使ってきたと言えるでしょう。

約6千年前になると、津軽海峡を挟んだ南北は同じ文化圏として、円筒土器というシンプルなデザインの土器が共通して作られます。時代がくると徐々に装飾的になり、3500年前ごろから複雑なデザインになっていきます。そして、精神性を表した土偶が多く作られました。たとえば函館の中空土偶や、千歳の動物形土製品、とくに青森の遮光器土偶は、写真からかけ離れた抽象的表現が際立ちます。「これは地域やムラが共有していたイメージで、ひとつの集団を強い絆で結びつける役割があったのでは」と越田さんは指摘します。土器や土偶で共有されたイメージは、近隣の集団ともゆるやかに繋り合っただけで、変化しながら、自分たちの文化として継承していったのではないかと、それが、縄文の創造性の本質ではないか、と考えられるのです。

さらに、縄文には優れた工芸技術がありました。恵庭や千歳では約3千年前の漆塗りの櫛が見つかっています。漆は青森や函館など南で発達していましたが、デザインの違いや、下地を塗った状態のものが見つかったことから、現地で制作していたのかもしれない。

縄文文化が教えてくれること



札幌国際大学
縄文世界遺産研究室 室長
越田賢一郎 (こしだ けんいちろう)

1972年、立教大学大学院文学研究科史学専攻修了。道立の美術館や北海道埋蔵文化財センターに勤務後、2010年から札幌国際大学人文学部現代文化学専攻教授。2016年、同大学縄文世界遺産研究室室長に就任。著書に『縄文人はどこへ行ったか?』『北海道の古代・中世がわかる本』(すべて共著)など。



釧路市東釧路貝塚の、約7000年前の東釧路Ⅲ式土器。3本の組み紐や、燃った紐による多彩な縄文文様がつけられている(釧路市埋蔵文化財調査センター 所蔵)



函館市著保内野(ちよぼないの)遺跡(約3300年前)の、中が空洞の中空土偶。現代アートのような造形美が感じられる。北海道唯一の国宝 (函館市 所蔵)



函館市豊原4遺跡(約6500年前)のつまみ付きナイフ。縦型のナイフは北海道・北東北独特の形で機能美が光る。子どもの足型付土版とともに埋葬されていた (函館市 所蔵)

す。千年以上、なかには4千年続いたところもあったそうです。「交易などで広い世界を知りながら、自分たちが大切にしているものを生かし継承していくことが、地域の文化を継承させる力になっていったのかもしれない」と越田さん。縄文文化は1万年もの長きにわたり続きました。現代の表現において、地域性や持続性について考えるとき、縄文が教えてくれることは、たくさんありそうです。

福田 亨

Toru Fukuda

a r t

子どもの居場所の新たな可能性

一般社団法人AISプランニング
代表理事・コーディネーター 漆 崇博

2020年8月末から約二週間、齊藤幹男氏を講師とした北海道文化財団主催「こどもアート体験事業」が、芽室町上美生学童クラブで実施された。

齊藤氏は、アニメーションやイラスト、オブジェの制作など多様な表現を用いた作品制作を行い、小学校など子どもたちが過ごす現場での活動経験も豊富なアーティストである。

子どもたちとの活動では、定型化しがちな学校の日常にアーティストが加わり、非日常的な体験や異なる価値観との出会いの創出を目指していく。しかしながら上美生学童クラブには、「みんなでお菓子を食べる」という時間を唯一の例外として、ルールやカリキュラムがない。私がこれまで出会った「子どもの居場所」とは異なり、子どもたちが好きなことを自由に楽しむことができている日常があった。

極めて自由度の高い「遊び場」と化している上美生学童クラブで、日常に割って入り明確なゴールを設定する意義、彼らにとって非日常的な取り組みを実行する意



創作活動は子どもたちのポートレートを撮影することから始まり、子どもたちが描いたイラストと実写映像との合成を、アニメーション作品としてお披露目した



義があるのか。どのようなアプローチが有効なのか。

齊藤氏は子どもたちやスタッフの方々一人ひとりの普段の行動や、過ごし方を観察し、一緒に絵を描いたり、周辺の地図を描いたりしながら、子どもたちの生活をさまざまな角度から紐解くように関わりを深めていった。芽室町中央公民館で実施した活動の成果発表では、そうした関わりや記録の数々が、齊藤氏が手がけた映像とともに披露された。

多くの場合、現代の子どもの居場所は、大人の都合で意図的につくられる。上美生学童クラブも例外ではない。しかしながら、大人の感覚では思い通りにはならない子どもたちのごくごく自然で自由奔放な行動を許容し、支える場として機能している。それは、スタッフの方々と子どもたち（保護者）との信頼関係によって成り立っている。といったことが、成果発表に表れていた。齊藤氏が切り取ったありのままの上美生学童クラブから、子どもの居場所の新たな可能性が見えたように思う。



赤星胡麻斑蝶 2020



飛昇 2018

今にもふわりと飛びそうな蝶。生き生きとした造形を支える、翅や触覚の精緻な表現が目を引きま。材料は木材のみで、着色は一切していません。翅の鮮やかな模様もすべて木の天然色。地となる板に違う色の木片をはめ込み、模様や絵を作る平面主体の伝統装飾技法「木象嵌」を、立体彫刻に応用した福田亨さんの作品です。

幼い頃から昆虫を絵画や折り紙で表現していた福田さんが、木象嵌という珍しい木工細工を始めたのは2011年、北海道おといねっぶ美術工芸高校1年の頃。木材の多様性に触れ、「木に穴を彫って別の色の木を埋めれば絵になるのでは」と考えたところ、古くは奈良時代にまで遡る木象嵌の技法と同じと知り驚いたそうです。現代では糸鋸機械や突板を使うのが主流ですが、「彫るのが面白いし、どんな木も生かせる自由度が高い」と昔ながらの手彫りによる木象嵌を独学で楽しむように。当初は趣味でしたが、関東の家具工房を辞めた2015年、作家を志し、

木象嵌の立体彫刻という新しい表現に挑みました。最初に作ったキアゲハに手応えを感じ、創作に打ち込める環境を求めて音威子府村に移り住んだのは、翌年のことです。

ほぼ実寸大というモチーフを仕上げるのに掛かる期間は約1カ月。「形や模様は正確に、でも生きている瞬間を捉えるには生態をよく観察し、動きや重心の取り方などを自分の中に落とし込むことが重要」と福田さんは語ります。さらに、京都伝統工芸大学で学んだ指物や組子などの技術と組み合わせ、自然の情景を表現するのも特徴です。

「森と匠の村」を掲げる音威子府の豊かな自然から、インスピレーションを受けるという福田さん。高校の後輩たちの相談に乗るなど、母校とのつながりも大切にしながらものづくりと向き合っています。

2021年1月には東京で個展を開催予定。「まずは目の前の作品をきっちり作れるようになり、いつか海外の生き物にもスポットを当ててみたいです」と話す福田さんは、木工界から熱い視線を集める若手作家の一人です。



○プロフィール

1994年、小樽市生まれ、音威子府村在住。京都伝統工芸大学校木工専攻卒業。北海道おといねっぶ美術工芸高校在学中、木象嵌の技法を独自に試作。2015年から象嵌を主体とした立体木彫作品を作り始め、「立体木象嵌」として発表。2019年に東京で初個展。北海道立三好太郎美術館などでのグループ展にも出品。リアルな昆虫の木工作品はSNS上でも話題となり、テレビやラジオ、美術雑誌に取り上げられた。

<https://fukudatoru-crafts.jimdofree.com/>
※最新の活動内容や展示会情報は、こちらのHPで要確認



加賀家文書館



幕末、野付半島の先端にあった野付通行屋で通詞(アイヌ語通訳)を務めた加賀伝蔵と、その一族が残した古文書史料を中心に展示。伝蔵は和人とアイヌとを仲介する重要な役割を果たすとともに、江戸への献上品だったサケやアイヌ風俗などを詳細に書き残している。

●野付郡別海宮舞町29 ☎0153-75-2473
入場料：(郷土資料館と共通) 一般350円、高校生以下無料
営業時間：9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日：第2・4月曜、第1・3・5日曜、土曜(第2・4は除く)、祝日、12/29~1/6
<http://betsukai-kanko.jp/shops/miru/betsukai-kyoudo-siryoukan/>

旧開拓使別海缶詰所

新しい産業として缶詰に着目した開拓使は、明治11(1878)年、西別川河口に「別海缶詰所」を開設。西別川のサケの缶詰は海外にも輸出された。その後「別海藤野缶詰所」となり、昭和初期までまちの産業を支えた。別海町郷土資料館には缶詰所に関する史料が展示されている。



●別海町郷土資料館 野付郡別海宮舞町29 ☎0153-75-2473
入場料：(文書館と共通) 一般350円、高校生以下無料
営業時間：9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日：第2・4月曜、第1・3・5日曜、土曜(第2・4は除く)、祝日、12/29~1/6
<http://betsukai-kanko.jp/shops/miru/betsukai-kyoudo-siryoukan/>

野付半島ネイチャーセンター



野付半島の自然や歴史の情報発信を行うビジターセンターで、海水の侵食で樹木が立ち枯れたトドワラ・ナラワラの幻想的な風景や原生花園などのネイチャーガイドツアーを実施。幻のまち・キラクがあったという伝説のもとになった野付通行屋跡遺跡の出土物も見ることができる。

●野付郡別海町野付63 ☎0153-82-1270
開館時間：4月~9月 9:00~17:00、10月~3月 9:00~16:00
休館日：12/30~1/5 入館料：無料
<http://notsuke.jp>

まちの暮らしに寄り添う場へ MUSIC SHOP PICKUP+oncafe



奥山さんご夫妻
「おいしいコーヒーとお菓子、
そして音楽を味わってください」
一番人気はカナダのミュージシャン
MOCKY(モッキー)の温もりあるサウンド

「人が集うサロンを作りたい」と、奥山一浩さんは父親が営んでいたレコード店を音楽CDのセレクトショップにリニューアル。妻のしのぶさんによるカフェも併設したユニークな形態のお店をオープンさせました。

一浩さんがセレクトするのは、この地の暮らしに寄り添い、聴くと風景が思い浮かぶようなポップミュージック。まちの人たちに新たな音楽の楽しみ方を提案し、独自のヒットセールスも生まれています。しのぶさんは、別海や道東をイメージさせる素朴なお菓子を作って提供しています。

札幌や道外で紹介されて人気となり、カフェを目的に別海を訪れる人もいるそう。また、美術家の奈良美智さんを招いてトークイベントを開催するなど、アーティストやクリエイターも注目するスポットとなっています。「よく、このまちは『なにもない』と言われるけれど、『これがある』という場所にしかかった」というお二人。別海のみならず、道東エリアで人と文化の交流発信拠点を目指しています。



別海町産バターを使った
自慢のレモンバターケーキは、
じんわりまろやかな味わい

●野付郡別海町別海旭町67-3 ☎0153-75-0813
営業時間：ショップ11:00~19:00(日曜~16:00)、カフェ11:00~16:00
定休日：月曜
<https://pickup-betsukai.jimdofree.com> (PICKUP)
<https://www.oncafe-pickup.com> (oncafe)

根釧台地に拓かれた酪農のまち 暮らしの風景が創造の場に

根室海峡沿岸部の特異な地形を生かして古くから行われてきた漁業と、昭和30年代以降に内陸部で盛んになった酪農を基幹産業としている別海町。特に酪農は、生乳生産量日本一を誇ります。どこまでも続く緩やかな丘陵に牧草が広がる風景は、この地に入植した人々の労働によって築かれたもの。今、ここに暮らす人々が改めてその美しさに気づき、クリエイターらも注目し始めています。

入植者の苦闘を伝える大草原の文学館 玉井裕志文学館

牧草が広がる中に、ぽつんとたたずむ一軒家が、作家・玉井裕志(ひろし)さんの文学館です。玉井さんはここで昭和33(1958)年から31年間暮らし、酪農を営むかたわら創作を続けてきました。室内には若いころから集めた約5千冊もの蔵書がびっしりと並んでいます。

昭和30年代、根釧台地を先進的な大規模酪農地帯にする目的でパイロットファーム事業が計画され、安定した生活の夢を抱いた人たちが道内外から入植しました。玉井さんもその一人。酪農と、少年時代から親しんできた

文学が両立できる暮らしを夢見て、別海町での暮らしをスタートさせました。しかし現実には、予期せぬ苦闘の連続。自伝的小説『萌える大草原』では、当時の酪農をめぐる厳しい環境やきつい仕事の毎日、家族に起こった出来事が赤裸々に描かれています。

そんな中でも玉井さんは文芸誌「朝霧」を創刊し、地域で必死に生きる人々を描いた作品を発表。小説家の小椋山博さんなどに高く評価され、作家として50年以上歩んできました。そして今年、『風の旋律』で第63回農民文学賞を受賞。86歳となった今も精力的に書き続けています。

玉井さんは平成元(1989)年に離農しましたが、「この地の酪農のことや、苦闘に直面した人たちがいたことを知ってほしい」という思いから、元の家を文学館として残しました。「まだまだ書かなければならないことはたくさんある」という玉井さんの力強い言葉が、重く胸を打ちます。



【別海町】



文学館2階の書齋で執筆



築63年の、耐寒ブロックを使った
入植者住宅も貴重



「本は宝物」と玉井裕志さん。
別海での映画撮影が縁で
山田洋次監督とも親交が深い

●野付郡別海町豊原3-13 ☎080-4047-5662(玉井)
開館時間：10:00~16:30(※来館の際は要連絡)
休館日：木・金曜 入館料：無料

B E T S U K A I





10月のある日、オホーツク海に面した知床半島、斜里町ウトロに滞在してのんびりしていたところ、知り合いから「海岸でゴミ拾いをするので参加しませんか？」と誘われた。知床ではいつも素晴らしい体験をさせてもらっているのだから、即答で参加を決めた。

今回のゴミ拾いの地は、遠音別川だ。この川の河口はサケがあがってくるために、釣り人が列をなして竿をふるう。しかし、人気のスポットだけに、海岸線はゴミだらけだった。ぼくは仲間と離れ、一人で海岸線のいちばん奥まで移動し、黙々とゴミを拾い続けた。すると、人相の悪い男がよたよたと近寄ってくる。頭にはタオルの鉢巻きを締め、ツナギに長靴姿でぼくを睨みつけていた。で「釣りの邪魔をすんじゃないか。ゴミ拾いとか偽善だろうが。おらおら」などと言われるのだから、と覚悟した。

「おい、おまえ」
「はい、なんでしよう？」
「おまえボランティアか、仕事か」
「ボ、ボランティアです」
「おまえは偉い。偉いぞお。ここにいるやつらはゴミを勝手に捨てて、ナントカカントカ…」



石川直樹 (いしかわ なおき)
写真家

1977年東京生まれ。2011年『CORONA』(青土社)により土門拳賞。2020年『EVEREST』(CCCメディアハウス)、『まれびと』(小学館)により日本写真協会賞作家賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)ほか多数。2020年には『アラスカで一番高い山』(福音館書店)、『富士山にのぼる』(アリス館)を出版し、写真絵本の制作にも力を入れている。

※次号のエッセイも
石川直樹さんが担当します

最初何を言われているのかわからなかったのだが、男は数分間に亘って、ひたすらぼくを激賞していた。「おまえ、〇〇って場所、知ってっか？道路が直角に曲がるあそこだ。そこはな、ゴミなんて落ちてねえし、釣り人もいねえ。おまえそこで釣りしていいぞ」(あんだだれ…)。ぼくは頭の中に疑問が渦巻いたが、男の醸し出す空気に圧倒されて何も言えなかった。「あ、ありがとうございます…」。

ぼくはおじさんにめっちゃくちゃに褒めちぎられたあげく、謎の釣りの許可まで与えられた。SNSの誹謗中傷問題が喧しい昨今、見知らぬ人から面と向かって一方的に褒められるというのも、逆に怖い。知床への感謝の気持ちから参加したゴミ拾いなのに、恐縮しかり。そんな滅多にない体験後に見た海を照らす夕焼けは、本当に美しく感じられた。

| 表紙作家の紹介 |



小泉 由美 イラストレーター、グラフィックデザイナー
Yumi Koizumi

北海道札幌生まれ、旭川育ち、東京在住。北海道芸術デザイン専門学校卒業後、株式会社 新生、有限会社 寺島デザイン制作室を経て2019年よりフリーランス。イラストを活かしたグラフィックデザインとイラスト制作で活動中。

ホームページ <http://koizumiyumi.com>
Instagram @kotsu_kotsu_kotsu

[個展]

2020年 「進水式」 / opa gallery (東京)
「HOME,SWEET HOME」 / in my book store (旭川)

[グループ展]

2019年 「ゼロからつくるゆかた展」 参加 (東京)
「リンクリンクポスター展2019」 参加 (東京)
「Hakka Impression Poster Exhibition」 参加 (中国)
2020年 「The World Pattern Design Competition 2020」
参加 (中国)
「GRAPHIC ART EXHIBITION」 参加/
RECTO VERSO GALLERY (東京)
「物語りがうまれる一枚の絵 vol.15」 参加/
opa gallery (東京)
「空気とリズム #2」 参加 / MOUNT tokyo (東京)
「Artbook Girls 2020 選抜展」 参加/
西武渋谷店 (東京)

[受賞]

2012年 世界ポスタートリエンナーレトヤマ入選
2014年 札幌ADCコンペティション 準グランプリ・
ポスター部門金賞
2015年 北海道のおいしいつながりパッケージデザイン優秀賞
世界ポスタートリエンナーレトヤマ入選
2016年 札幌ADCコンペティション 会員審査賞
2018年 世界ポスタートリエンナーレトヤマ銅賞
Shenzen International Poster Festival入選
2020年 The 2nd Hakka Impression International Poster
Exhibition 2019 “The Best Poster”
The World Pattern Design Competition 2020 “Finalist”



◎北海道文化財団アトスペース企画展 vol.45

小泉由美 個展「観測」

会 期：2020年12月2日(水)～2021年2月26日(金) 9:00～17:00

休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。

会 場：北海道文化財団アトスペース
(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料：無料

財団事業インフォメーション (2020年12月～2021年3月)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演やイベント等の開催が変更または中止になる場合があります。
公演等の実施については、事前にそれぞれのお問い合わせ先にご確認ください。

新進アーティスト育成事業

●北海道高校演劇 Special Day

日 時:2021年1月7日(木)、8日(金)
開 演 ①14:00～、15:30～
②18:30～、20:00～
会 場:札幌市民ホール(カナモトホール)
入場料:一般・学生500円(前売・当日共通)
参加校:今秋の全道大会での最優秀賞受賞校、富良野高校
(前年度最優秀賞)
問い合わせ:北海道文化財団 ☎011-272-0501

●全国学生演劇祭

日 時:2021年3月4日(木)～8日(月)
会 場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
入場料:一般:1ブロック券前売・予約 2,500円
当日券 3,000円
※3ブロック券、学生割引等の料金については
お問い合わせください。
問い合わせ:日本学生演劇プラットフォーム北海道支部
加納絵里香 ☎080-3291-6547

まちの文化創造事業

●旭川歴史市民劇

旭川青春グラフィティ「ザ・ゴールデンエイジ」

日 時:2021年3月6日(土) 開演19:00
3月7日(日) 開演14:00
会 場:旭川市民文化会館 小ホール
入場料:全席指定(前売)2,000円、
高校生以下無料
問い合わせ:旭川歴史市民劇
実行委員会事務局
(まちなかぶんか小屋内)
☎0166-23-2801

●市民が創るベートヴェン交響曲第九番
滝川公演

日 時:2021年3月31日(水) 開演18:30
会 場:たきかわ文化センター
入場料:一般3,000円、大学生以下2,000円
問い合わせ:NPO法人アートステージ空知(滝川事務所)
☎0125-23-6330

アートシアター鑑賞事業

●「しあわせの雨傘」

深川市公演
日 時:2020年12月13日(日) 開演13:00
会 場:深川市文化交流ホール
入場料:3,000円
問い合わせ:NPO法人深川市舞台芸術交流協会
☎0164-23-0320

中標津町公演

日 時:2020年12月16日(水) 開演18:30
会 場:中標津町総合文化会館
入場料:一般 3,500円、
高校生以下1,500円
問い合わせ:(一財)中標津町
文化スポーツ振興財団
☎0153-73-1131



名寄市公演

日 時:2020年12月20日(日) 開演14:00
会 場:名寄市民文化センター
入場料:3,500円
問い合わせ:なよろ舞台芸術劇場実行委員会
☎01654-2-2218

北広島市公演

日 時:2020年12月22日(火) 開演18:30
会 場:北広島市芸術文化ホール
入場料:4,000円
問い合わせ:北広島市芸術文化ホール運営委員会
☎011-372-7667

●ONEOR8公演「グレーのこと」

北見市公演

日 時:2021年1月27日(水) 開演19:00
会 場:北見芸術文化ホール
入場料:3,000円
問い合わせ:協同組合日専連北見 ☎0157-31-0909

幕別町公演

日 時:2021年1月29日(金) 開演19:00
会 場:幕別町百年記念ホール
入場料:3,500円
問い合わせ:NPO法人まくべつ町民芸術劇場
☎0155-56-8600

●Ezo'nコンサート～歌姫～

東神楽町公演

日 時:2021年2月13日(土) 開演18:30
会 場:東神楽町総合福祉会館
入場料:500円
問い合わせ:東神楽町教育委員会地域の元気づくり課
☎0166-83-5407